

2021年（令和三年）

5月21日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

4/29～5/12のNYMEX・WTI先物市場は、63.58～66.08ドルの範囲で推移した。

5月13日は、前日夜のコロナパイプライン操業再開の発表を受け、5営業日より反落した。ただ、一部地域での供給不足解消には、数日を要する模様。6月限の終値は前日比2.26ドル安の63.82ドル。

週末14日は、米国株高による投資意欲の活発化、ドル安に伴う原油の割安感から、反発した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比8基増の352基。6月限の終値は前日比1.55ドル高の65.37ドル。

週明け17日は、欧米におけるワクチン接種進展に伴う行動制限の緩和、経済活動の正常化への期待感から、続伸した。インド・日本・台湾などの感染再拡大が下押し要因。6月限の終値は0.90ドル高の66.27ドル。

18日は、ロシアの国際機関常駐代表が、イラン核合意をめぐる協議の進展を発言、これを受けて、イラン原油の輸出拡大懸念から、3営業日より反落した。6月限の終値は前日比0.78ドル安の65.49ドル。

19日は、アジア消費国における感染再拡大への警戒感、米国株式市場における軟化を受けて、大きく続落した。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫が前週比130万バレル増と市場予想をわずかに上回る積み増しとなったが、製品在庫は予想を上回る取り崩しであった。6月限の終値は前日比2.13ドル安の63.36ドル

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、4月29日～5月12日の間65.30～67.10ドルの範囲で推移した。5月13日66.10ドル、14日64.70ドル、17日66.40

ドル、18日67.90ドル、19日66.40ドルと推移した。

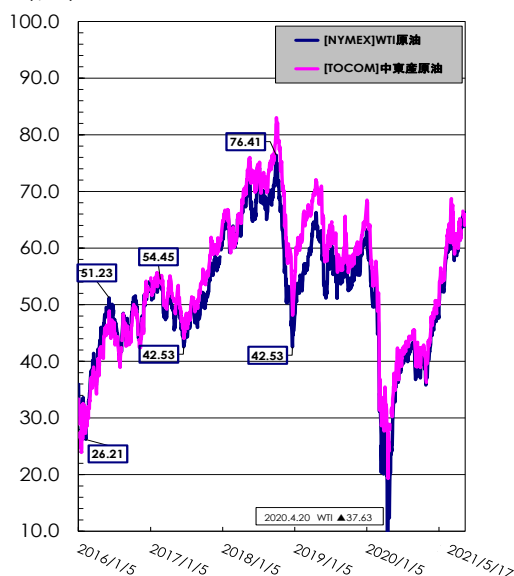
為替は4月29日～5月12日の間108.77～109.33円の範囲で推移した。5月13日109.63円、14日109.63円、17日109.45円、18日109.22円、19日109.00円で推移した。

財務省が5月20日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は、45,849円/klで、前旬比129円安、ドル建て66.58ドルで前旬比0.27ドル高、為替レートは1ドル/109.48円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、4月の原油輸入平均CIF価格は、45,666円/klで、前月比4,163円高、ドル建て66.26ドルで前月比4.64ドル高、為替レートは1ドル/109.57円

そのような中で、5月17日時点の小売価格は、ガソリンが前週(5月10日)比1.2円の値上がり、軽油も同1.2円の値上がり、灯油は同14円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は24週連続の値上がりだった。この週(5月第3週)の原油コストはわずかに値下りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の引き下げと据え置きに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/9 ~ 5/15	2,399 ▼ -100	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	62.3 ▼ -2.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/15	11,238 ▲ 58	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/17	65.61 ▼ -0.54	▲ 31.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/17	66.27 ▲ 1.35	▲ 34.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	66.58 ▲ 0.27	▲ 24.37
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,849 ▼ -129	▲ 17,020
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.48 ▲ 0.75	▼ -0.89
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/17	110.45 ▼ -0.68	▼ -2.26

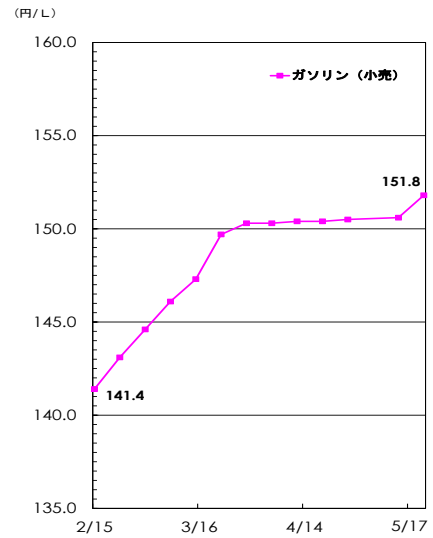
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/9 ~ 5/15	766 ▲ 53	▲ -
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	656 ▼ -64	▼ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	5/15	2,025 ▲ 110	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/11 ~ 5/17	61.9 ▲ 1.4	▲ 33.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/11 ~ 5/17	59.1 ▲ 0.7	▲ 31.2
	(TOCOM/中部)	5/17	60.2 ➡ 0.0	▲ 30.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/17	151.8 ▲ 1.2	▲ 26.3

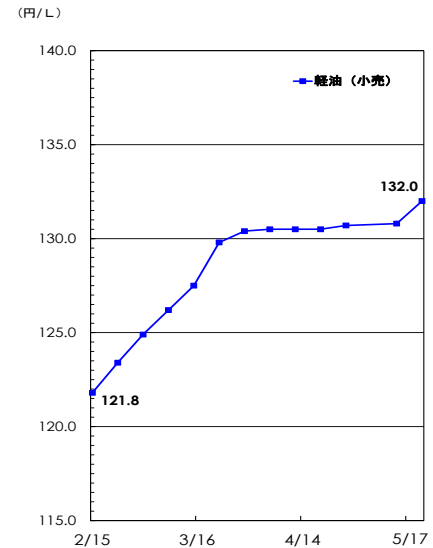
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

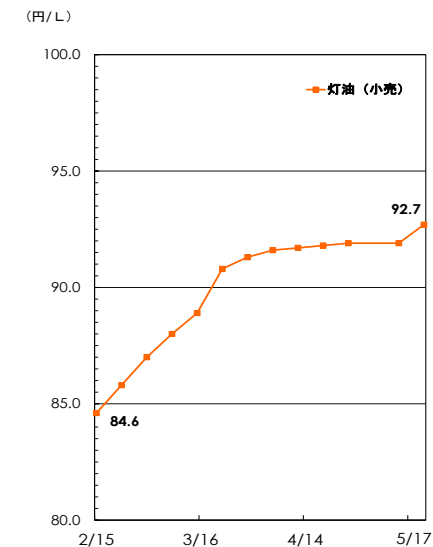
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/9 ~ 5/15	599 ▲ 33	▼ -
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	549 ▲ 228	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -53	▼ -
	在庫	5/15	1,945 ▲ 50	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/11 ~ 5/17	63.8 ▲ 1.6	▲ 32.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/11 ~ 5/17	64.1 ▲ 0.7	▲ 21.4
	(TOCOM/中部)	5/17	- -	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/17	132.0 ▲ 1.2	▲ 25.2

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/9 ~ 5/15	140 ▼ -33	▼ -
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	140 ▲ 22	▼ -
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -
	在庫	5/15	1,493 ➡ 0	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/11 ~ 5/17	63.2 ▲ 1.3	▲ 31.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/11 ~ 5/17	58.8 ▲ 0.8	▲ 30.1
	(TOCOM/中部)	5/17	62.5 ▲ 1.7	▲ 29.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/17	92.7 ▲ 0.8	▲ 16.6



## ■ 関連情報

## 1 海外/原油

5月19日のNYMEXのWTI先物原油は続落した。インド・日本・台湾等アジア消費国における感染再拡大への警戒感が高まるともに、米国株価や暗号資産(ビットコイン)等金融市場の軟化に伴う投資家のリスク回避姿勢の高まり、売りが優勢となった。また、前日のイラン核合意をめぐる協議の進展報道も下げ要因となった。なお、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫は前週末比130万バレル増と市場予想(160万バレル増)をわずかに下回ったが、ガソリンは200万バレル減(市場予想:60万バレル減)、中間留分は250万バレル減(市場予想:40万バレル

減)と製品出荷は好調で、まちまちの結果となった。6月限の終値は前日比2.13ドル安の63.36ドル、7月限の終値は同2.15ドル安の63.35ドル。

EIAによると、5月17日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.7セント値上がりの1ガロン3.028ドル(88.2円/ℓ)、ディーゼルは同6.3セント値上がりの3.249ドル(94.7円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がりとなった。

## 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年5月9日～5月15日に休止したトッパ能力は96.9万バレル/日で、前週に対して9.3万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は239.9万klと、前週に比べ10.0万kl減少。前年に対しては0.9万klの減少。トッパ稼働率は62.3%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては0.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.4%増、ジェット/8.5%増、灯油/19.2%減、軽油/5.8%増、A重油/19.7%増、C重油/15.3%減。今週のC重油の輸入は0.4万kl(前週比0.1万kl減)。軽油の輸出は0.0万kl(前週比5.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は65.6万kl(対前週8.9%減)と2週連続で減少した。ジェット9.6万kl(対前週30.6%増)、灯油14.0万kl(対前週18.6%増)、軽油54.9万kl(対前週71.0%増)、A重油18.8万kl(対前週81.7%増)、C重油10.1万kl(対前週44.4%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (5/9 ~ 5/15)	前週 (5/2 ~ 5/8)	前週比
ガソリン	656	720	▼ -64 (-9%)
ジェット燃料	96	74	▲ 22 (30%)
灯油	140	118	▲ 22 (19%)
軽油	549	321	▲ 228 (71%)
A重油	188	103	▲ 85 (83%)
C重油	101	182	▼ -81 (-45%)
合 計	1,730	1,518	▲ 212 (14%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月15日時点の在庫は、灯油、A重油でわずかな取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは202.5万kl、前週差11.0万kl増。前年に対しては15.8万kl多い。

灯油は149.3万kl、前週差0.0万kl減。前年に対しては5.8万kl少ない。

軽油は194.5万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては40.4万kl多い。

A重油は76.0万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては1.1万kl多い。

C重油は201.4万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては8.6万kl多い。

(単位: 千KL)

	今週 (5/15)	前週 (5/8)	前週比
ガソリン	2,025	1,915	▲ 110 (6%)
ジェット燃料	806	799	▲ 7 (1%)
灯油	1,493	1,493	➡ 0 (0%)
軽油	1,945	1,895	▲ 50 (3%)
A重油	760	782	▼ -22 (-3%)
C重油	2,014	2,001	▲ 13 (1%)
合 計	9,043	8,885	▲ 158 (1.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月11日～17日の指標原油価格は前週(5月4日～10日)比で値下がり、為替レートはわずかに円安で、円建ての原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

次週(5/20～5/26)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比0.5円の値下げと据え置きに分かれた模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月11日～17日の製品スポット市況は、4月27日～5月10日平均と比べ、全油種・全取引とも値上がりした。

直近(5/11～5/17)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。直近週(5/11～5/17)において、ガソリンは114～116円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、灯油は62～63円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油は62～64円台で大きく値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/11～5/17)に、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は1.5円の値上がり、軽油は1.8円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(5/11～5/17)に、ガソリンは115～117円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油は59～61円台で大きく値上がり後値下がり、軽油は63～65円台で大きく値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、同期間(5/11～5/17)に、ガソリン112～113円台で出入り後値上がり、灯油58～59円台で出入り後値上がり、軽油63～64円台で出入り後値上がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (5/11～5/17)	前週 (4/27～5/10)	前週比
	レギュラー	61.9	60.5	▲ 1.4
	灯油	63.2	61.9	▲ 1.3
	軽油	63.8	62.2	▲ 1.6

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	期近物/終値 [平均]	今週 (5/11～5/17)	前週 (4/27～5/10)	前週比
	レギュラー	59.1	58.4	▲ 0.7
	灯油	58.8	58.0	▲ 0.8
	軽油	64.1	63.4	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/11～5/17実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 1.0	
灯油	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 1.0	
軽油	▲ 1.6	▲ 0.7	▲ 1.2	
A重油	▲ 1.6			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(5月10日)比1.2円高の151.8円、軽油も同1.2円高の132.0円、灯油は18ℓベースで同14円高の1,669円(1ℓベースでは同0.8円高92.7円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は24週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは43都道府県、横ばいは1県、値下がり3県だった。全国最安値は145.4円の徳島県(前週比1.5円高)、その次に安かったのは145.5円の埼玉県(同0.7円高)、他方、最高値は160.0円の長崎県(同0.7円高)と鹿児島県(同1.7円高)だった。最も値上がりしたのは同3.2円高の愛知県(151.7円)で、横ばいは

高知県のみ1県、最も値下がりしたのは同0.6円安の愛媛県(150.6円)だった。

今週(5月11日～17日)は、指標原油価格は値下がりし、為替レートはわずかに円安で、円建ての原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。次週(5月20日～5月26日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円の値下げと据え置きに分かれた模様。次回調査時(5月24日)のガソリンの小売価格は横ばいが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格	今週 (5/17)	前週 (5/10)	前週比	直近高値		
	レギュラー	151.8	150.6	▲ 1.2	08/8/4	185.1
	灯油	92.7	91.9	▲ 0.8	08/8/11	132.1
	軽油	132.0	130.8	▲ 1.2	08/8/4	167.4

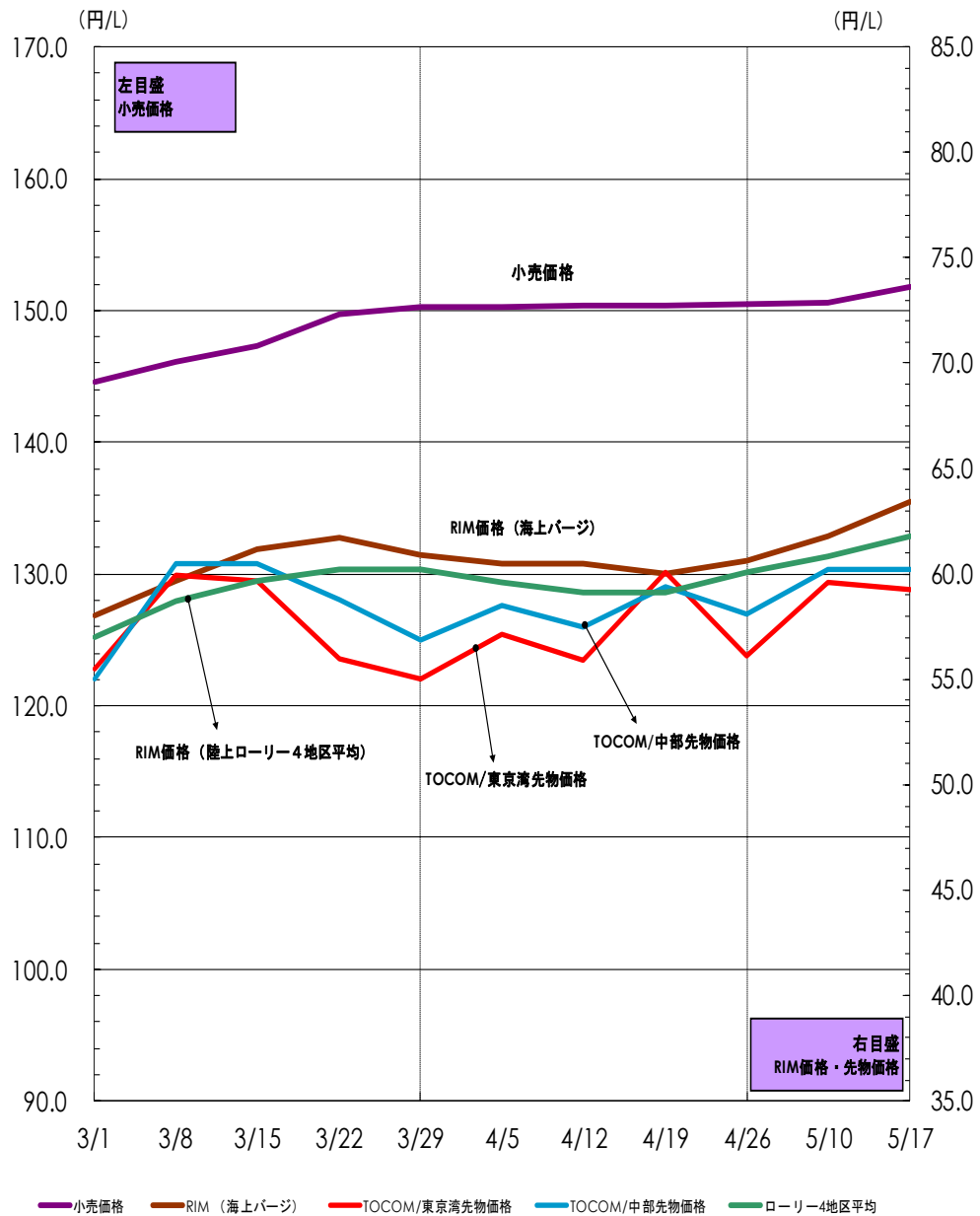
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/3/1 ~ 2021/5/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2021第8号)の公表は、5/28(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。